

2017 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録1 限目》

《講座のメインテーマ》

防災の最新知見と

地域防災実践事例を学ぶ

記録：講座協力委員 中島光明

◆開催月日：2017 年10月12日(木) 13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 首都圏地震のリスクを学び、受講生の自己紹介を聞く

・前半：「都市火災」の怖さを含む首都圏大地震への備えを学ぶ

講師：加藤 孝明氏（東京大学生産技術研究所准教授）

・後半：『6 グループに分かれた討議』

講座参加者の自己紹介と「我が地域防災力の課題」について意見交換



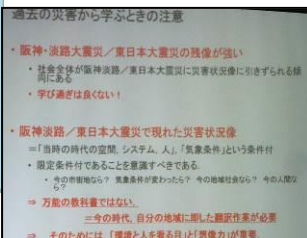
講座の様子



《首都直下地震の切迫性》

- ・過去の歴史から関東において、阪神淡路大震災級の地震（M7 程度）は、間隔約 100 年程度で発生。
- ・前回の関東大震災は 1923 年に起こった。
- ・直下地震の発生確率は、30 年で 70%と言われる。
- ・首都圏直下地震は何処で起こるかにはわからないが、震度 6 強以上の揺れは半径 20 km 程度に及び。

講師：加藤孝明氏



《首都直下地震は何が問題か？》

- ・都心直下南部地震の被害想定は、全壊・焼失家屋＝最大 61 万棟、死者＝最大 2.3 万人（内閣府）
 - ・未経験の被害密度（超過密な生活空間から）
 - ・未経験の膨大な被害量（ガレキ発生量など）
- 《都市火災の怖さ！》
- ・火災リスクの高い延焼連命共同体（出火すると延焼する恐れの高い 1 群の建物群）は、首都圏では 7～8000 棟の塊が多数存在。

《まとめ》

- ① 人間の本質を理解した上で防災に備える。
 - ・経験していないことは信じない（自分に都合よく考える）
- ② 防災「だけ」で、地域づくり、まちづくりが進んだ例はない。
 - ・一般社会は共助の重要性を理解していない。
 - ・過去の災害事例を参考に「自分たちで考える」ことが重要。
- ③ 防災「も」まちづくり
持続的な自助・共助・公助の実現のため、「市民先行・行政後追い」のバランスの取れた備えを進める。



アイスブレイク 《安否確認の事例》

「三井杉田台自治会」は、防災訓練時に「安否確認」だけではなく「全世帯参加型」で「近隣の顔の見える関係づくり」および「防災知識の習得」を兼ねた訓練を実施。

左・稲垣博正さん（講座委員会リーダー）
と右・山田美智子さん（進行）

担当：片山 晋さん



後半：『6 グループ討議』・グループ単位で『我が地域防災力の課題』等について討議



～講座スタート挨拶～
池田 邦昭さん
（防災塾だるま副塾長）

《① 受講者全員から自己紹介と講座の受講動機の発表》

《② 地域防災力の課題についての意見交換》

- ・自治会の役員として、地域防災力向上につながる知見を学習したい。
- ・地域防災力に不可欠な人材育成に関する先見事例を習得したい。
- ・子どもたちが自然に防災を身に着けられるような地域を目指したい。

- ・「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」は、「神奈川大学と防災塾だるま」の共同企画。
（次週配布の『『防災塾・だるま』10周年記念誌』を一読して下さい。）
- ・稲垣講座運営委員会リーダーの下で具体化し、今回、12 回目を開催。
受講者は 44 名。

